小西友七著

英語前置詞活用辞典

大修館書店

小西友七（こにし・ともしち）

1941年東京外語英語科，1951年京都大学英文科卒業．現在，神戸市外国語大学教授．

主な著書：『前置詞（下）』（研究社），『実用高等英文法』（英宝社），『時事英語文法』（語学書林），『現代英語の文法と背景』（研究社），『英語学演習』（英宝社），『現代英語学演習』（英宝社），『現代英語の文法と語法』（大修館），『アンカー英和辞典』（学研）〔共監修〕，『英語慣用法辞典（改訂版）』（三省堂）〔大塚高信博士と共編〕

訳書：『近代英語の動詞副詞結合』（研究社）

英語前置詞活用辞典 © T. Konishi, 1974

1974年12月1日　初版発行
1975年10月1日　五版発行

著者との協定により検印を廃止する

著者　小西友七
発行者　鈴木敏夫

発行所　株式会社　大修館書店

101 東京都千代田区神田錦町3-24
電話（03）294-2221（大代表）／振替 東京 40504

組版・印刷　壮光舎印刷・近藤製版／製本　牧製本／
装幀　近藤敬三

はしがき

本辞典は，前置詞そのものの意味用法を記述する『英語の前置詞』の姉妹篇として，名詞，動詞，形容詞，副詞などがどんな前置詞と結合するか，その連語関係，つまり前置詞活用の面を取り扱ったものである。

われわれは，たとえば tired という語が *from* とか *with* とかの前置詞をとることを知っている。そして，たいていの辞書は，それが多少なりとも言語事実に立脚するものであれば，最近の傾向として *from* が用いられると言及があるようである。しかし，それ以上の記述はない。そうすると，一方，われわれは，tired とくれば *from* と前置詞は固定したものと思いがちになる。ところが，事実は，もっと柔軟性に富んでいるのである。本辞典にあげているように，そのほかに *after* も，*by*，*at* も使われる。そして，それが単に variation というだけでなく，それぞれ，文脈に応じてそのほうがより適切であり，かつ生きていることが知られよう。日本語でも，「てにをは」の正しい用法から，

顔洗う前にほたるが三つ四つ
顔洗う前へほたるが三つ四つ
顔洗う前をほたるが三つ四つ

のような最後の境地に達するには，なかなかの名人芸を必要とする。英語の前置詞についても，その正しい用法はもちろんのこと，上掲の俳句のように，その正誤以上の段階に進むことを心がけなければならないであろう。本辞典はこうしたことをできるだけ明らかにし，整理し利用したいという願望から生まれたものである。

しかし，このような複雑な様相を持つ前置詞の連語関係を1冊の辞典ですべてを網羅することはもとより不可能である。それゆえ比

較的われわれに重要でないと思われるところは簡単に扱い，場合によっては省略した。その代り，日本人にはむずかしく，外国の辞典や参考書類にはあまりふれていない，たとえばbed, car, morning, night, school, television などのような名詞の前に来る前置詞にはできるかぎりスペースをさくことにした。

特にまた，われわれが日本語につられて，たとえば「O大学の学生です」を？I am *a student of* O University. としてしまうようなことにも注意を怠らなかったつもりである。ability to do といった本辞典で例外的な項目を立てたのも *ability of doing を導き出すための苦肉の策にほかならない。

さらに，本辞典では，「使用上の注意」にあげたように，選択制限をすべて表記した。これは活用辞典としては前置詞の選択についで重要なものであり，かつ本辞典のひとつの特色として努力したつもりである。また，ある語のとる前置詞だけでなく，それと関連する不定詞，節，冠詞などの連語関係にも言及した。これは前置詞を，その語の持つ統語的特性の一環として理解することの重要性を感じたからである。

私事にわたって恐縮であるが，本辞典を計画したのは6，7年前である。まずカードの収集より始まったが，年代的な顧慮を怠っていた。Galsworthy や Hardy，Lawrence などのものが多かった。今使われている英語の前置詞という第一義的な要求から，ほぼこれを第2次大戦以降のものに限定したため，せっかく集めたカードも一挙に半分以上がむだになり，一時挫折感に見舞われた。この折に，小生を鼓舞し，好意的に援助していただいたのが，南出康世氏，三宅胖さんのお2人である。本辞典の完成にあたって，何よりもまずこのお2人に感謝しなければならない。

用例の補強にはその後，英米の多くの（学習）辞典や Quirk *et al.* などの最近の文法書からの用例をもってし，さらに，中野道雄氏，柴田志づ子さん，伊藤千之氏およびその他の方の御好意を仰いだ。また，小生の関係している神戸市外語大，神戸大，奈良女子大の学生諸君の助けを借りたところもある。以上のように，本辞典は，私の周囲のかたがたの暖かいご援助の賜であることを特記し，深く

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

謝意を表するものである。

こうした事情から本辞典は，当初の出版予定日を2年近くも越えてしまった。かつページ数も3-4倍にふくれ上がった。終始寛容と忍耐をもって対処してくださった編集部の鵜沢敏明，飯塚利昭の両氏に，最後ではあるが，心からお礼申し上げたい。

終わりに，この辞典の改善については今後努力を続けるのはもちろんであるが，利用者からのご助言を仰ぐ次第である。

1974年10月

小西　友七

使用上の注意

1. 見出し語

アルファベット順にボールド体の活字でかかげ，関連する前置詞別に番号を付して中見出し語をかかげた．中見出し語は原則として前置詞のアルファベット順によったが，説明の都合で順序を定めた場合もある．特に名詞の場合では，名詞のあとにくる前置詞は一括して先に扱い，名詞の前にくる前置詞はそのあとに並べてある．

同じ形で品詞の異なる語を2つ以上見出し語としてあげた場合は（*n.*）（*v.*）などとして品詞を示した．また（*v.*, *n.*）などとしてひとつの見出し語の下で扱った場合もある．この場合は，これによって同時に中見出し語の順序の表示をも兼ねている．

用例以外ではすべて米つづりを用いた．

名詞が中見出し語の位置にきた場合 a/the のいずれか，または両方とも明示したが，その意味するところは名詞の意味内容によって異なる．

① 単に名詞が countable であることを示す場合は，on a lake のように示す．ただし，at (*or* by, through) the door のように a よりも the を伴うことが多い連語の場合は the～としてある．

② 成句的に a のみを伴う場合 a disappointment to A.

③ a/the が同じような頻度で用いられる場合は a (*or* the)... とか the (*or* a)... のように示す．

④ 名詞 interest の場合のように a の有無が動揺している場合は(an) interest in A のように示す．

2. 用例

用例では，該当する見出し語と前置詞の部分をイタリック体（斜体）字で示した．ただし原文でイタリック体だった部分については，特にこれを（原文イタ）として注記した場合もある．用例の出典は［ ］に入れて示し，続けて訳文を（ ）に入れ，次の用例との間は/で区切った．

用例は，辞書・参考書・文学作品・新聞・雑誌・映画台本など，いずれも主として1940年以降のものから採り，頻出するものについては省略記号を用いた．これらについては巻末のリストを参照されたい．

[Quirk], [Long], [Wood], [Hill] のような形で示したものは，それぞれ，その著書（複数）で用いられている用例を示す．ただしその著者の地の文から採った場合には，一般の引用に準ずる．

辞書の用例中，[Web. 3] [AHD]などの中の一部には出典を示したものもあるが，本辞典ではネイティブ・チェックの上，現用法と認められるものに限り採用し，必要のない限りもとの出典を削除して辞書名のみをあげた．

辞書の用例は大部分はその該当個所にあるものであるが，中には他の個所から採ったものもある．たとえば TEAM の項で It's awkward that Brown should be unable to play *in* our *team* this week. [ALD] という例があるが，ALD は team の項でなく，awkward の項であげているのである．さらにまた，WARNING の用例で *warning against* premature exultation [COD^5] としているが，これは COD^5 の用例にはどこにもなく，実はこの辞典の laugh の定義の一部を採用したものである．

用例中，明らかに誤植と思われるものは著者の責任において訂正をしたが，疑問と考えられるか誤解を与えそうな部分には，その直後に [*sic*] を入れた．たとえば BEGUILE の項で He *beguiled* us *with* song [*sic*]. [AHSD] の song には我々は通例冠詞を付するかまたは複数形を期待するからである．

3. NB

言語上の注意や関連する表現，類語との区別などを NB として示した．特に見出し語の派生語の前置詞用法などはほとんど NB で扱っているので注意されたい．

4. 選択制限の表記

本辞典で最も苦心したことは，変形文法でいう選択制限（selection restriction），すなわち，どのような意味内容の名詞を主語・目的語にとることができるか，あるいはできないかという制限を示そうとしたことである．そのため項目の全部にわたって，主語と前置詞の目的語（A，B）の意味素性（semantic feature）を示すようにした．きわめて大ざっぱであるが図式化すると

① 〈人〉 [+human]
　〈物〉 [+concrete, −human]
　〈事〉 [−concrete, −human]

② 連語領域の狭い場合は単に〈物〉としないでもっと具体的に〈手〉〈布〉〈本〉〈犬〉のように示す．つまり識別素（distinguisher）を用いる．

③ この中間のものについては便宜上〈動物〉〈場所〉〈時〉〈行為〉といったものも用いる.

となる.

しかし，具体的にどちらか決めかねる場合も多く出てくる. I agree with you. という場合，you は what you said などと対応し，意味内容からは〈人〉よりも〈事〉であり，the government, the company も多くの場合，むしろ〈人〉の中に包含されるであろう．しかしこのような場合，本辞典では原則として単語の表の意味を重んじ，第1例のような場合は〈人〉，あとの例では〈人・会社など〉または〈人など〉としてある.

また，動名詞・分詞などだけを伴う場合には，特に〈こと〉とし，単なる名詞の〈事〉とは区別した。

5. 記号類の用法，その他

( ) は省略可能な部分，ないし用例では著者による補充を示す.

[ ] は用例の出典を示すほか，別または反対の意味の用法を一括して示すのに用いる．たとえば argue *against* [*for*] A〔A に反対〔賛成〕する〕とあれば，argue *against* A は「反対する」，argue *for* A は「賛成する」の意であることを示す.

用例のあと，および訳文中の〔 〕は補注ないし説明記事を示す.

☞ は本辞典における参照項目を示す.

《米》《英》《俗》はそれぞれ米国英語，英国英語，俗語を示す.

＊は非文法文や用いられない言い方を示す.

見出し語からではひきにくい語などを集めて巻末に索引を付した.

A

abhorrence

have an abhorrence *of* A〔(人が) A〈生物・事〉が大嫌いである〕

Most people *have an abhorrence of* snakes.[Crowell] (大抵の人はヘビが大嫌いだ)

NB 動詞 abhore の強意表現で of は目的格関係を示す. なお, Most people *abhore* snakes. のほか, Most people *hold* snakes *in abhorrence*. ともいえる.

abhorrent

1a. **abhorrent *from*** A〔(人が)A〈事〉に強く反対して〕

a man most *abhorrent from* violence [Web. 3] (暴力に最も強く反対する人)

NB この用法が abhorrent の原義であるが [OED, 2a], 現在では古語 [Web. 3].

b. **abhorrent *from*** A〔(事が) A〈事〉と一致しない; 矛盾する〕

abhorrent from the principles of law [RHD] (法の原理とはかけ離れた)

2. **abhorrent *of*** A〔(人が)A〈事〉を忌み嫌う〕

The Greeks were *abhorrent of* excess.[COD[5]] (ギリシア人は不節制を嫌った)

NB この用法を古語とする辞書もある [cf. COD[5]]. abhorrent to/of の相違は familiar to/with の相違に相当する. 上の文を 3. に準じて Excess was *abhorrent to* the Greeks ともいえる. 現在ではこのほうが多く用いられる.

3. **abhorrent *to*** A〔(事が)A〈人〉にとってぞっとするほど嫌な; 忌むべき〕

Slavery is *abhorrent to* a humane man. [McMordie[3]] (どれい制度は人道主義者にとって忌むべきものである)

NB この型は2つの事柄が相容れない性質のものであることを示すのにも用いられる: Such conduct is *abhorrent to* their philosophy. [Bolinger] (かかる行為は彼らの人生哲学と相容れない)

ability

1. **ability *in*** A〔A〈学科・学問〉における才能〕

He has unusual *ability in* science. [HSD[5]] (彼は科学に非凡な才能を持つ)

NB ability が特定分野における才能 (talent) を示す場合しばしば複数形で用いられる: Composing music is *beyond* his *abilities*. [RHD] (彼の才能は作曲にまでは及ばない) beyond his ability であれば, 単に彼は作曲をする能力がないことをいうだけであるが, abilities を用いると, 彼はいろいろな分野に優れた才能を持っているが, 作曲の分野ではその才能が欠けていることを暗示する.

2. **ability to do** 〔…する能力〕

He has the *ability to swim* like a fish. [HSD[5]] (彼は魚のように泳ぐことができる) [cf. He is *able to swim* like a fish.]/Children display an amazing *ability to become* fluent speakers of any language consistently spoken around them. [Langacker, *Language*] (子供は，たえず自分の周囲で話されるどの言語でも流暢に話せるようになる驚くべき能力を発揮する)

NB① *He has the *ability of swimming* like a fish. とはいわない [cf. AHD].

NB② Bernstein は ability *at doing*, Hill (*Guide*, p. 110) は ability *for doing* (e. g. His ability *for organizing* is very great.) を認めているが ability *to do* が最も普通. ☞ ABLE.

NB③ ability to do と冠詞 Hill (p. 110) は次のような文脈では，特定の能力をさすので，the ability を用いるべきであると述べている：*Have you *an ability to learn* Spanish?/Have you *the ability to learn* Spanish? (cf. Can you learn Spanish?) たしかに，the を伴う例は多い：However, both words are used so rarely by the average person that *the ability to form* such esoteric plurals is the privilege of the highly literate. [Cattell, *Grammar*] (しかしながら両語は一般の人々にはまれにしか用いられないので，このような難しい複数形を作る能力は，高度な教養のある人の特権である)

しかし，不定詞で修飾されたからといって，必ずしも the が付くとは限らない．本来備わっている能力をいうときは無冠詞である：A horse has *ability to work*. [HSD[5]] また，次例のように不定冠詞を伴うこともあり，「特定化」の概念は相対的なもので，話し手，書き手の主観に左右されることも多く，冠詞の有無・種類に関して明確な法則をたてることは極めて困難である：We have assumed that any (linguistically untrained) adult has *an ability to identify*, in a purely intuitive way, certain features of his language with certain non-linguistic aspects of his experience. [Crystal & Davy, *English Style*] (どの (言語学的訓練を受けていない) 大人も，自分の用いる言語のある特徴と，自分の経験の非言語的なある面とが対応関係をなしていることを純直観的に知る能力を持っていると，我々は仮定してきた)

NB④ 以上のことは inability にも通じる：Whether right or wrong, he always comes off worst in an argument because of his *inability to speak* coherently. [Quirk] (正しかろうと誤っていようと彼は筋道を立てて話すことができないために，議論ではいつもさんざんだ)

ablaze

ablaze *with* A〔(場所が) A〈照明など〉で輝いた；(顔が) A〈怒り〉で燃えた〕

We arrived at the ball at about nine-thirty. The place was *ablaze with* lights and jewels. [Honig, *Nice Work*] (9時半頃に舞踏会に着いた．会場は照明と宝石で輝いていた)/Her face was *ablazed with* anger. [ALD] (彼女の顔はおこってまっかになっていた)

able

able *for* 〔A (人などが) A〈事〉ができる；の能力がある〕

"Well, go back to it, go back to your crippled life. Leave real living

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

to people who are *able for* it." [Murdoch, *Italian Girl*] (さて話をもとに戻そう．あなたの片輪の人生に戻ろう．まともなほうはまともに生きられる連中に任せておこう)

NB 通例は不定詞を用いて...*are able to live* a real life などというところ．なお，才能を発揮する分野には in. ☞ ABILITY 2. NB②; 1.

abound

1a. **abound *in*** A〔(場所が) A〈生物・資源・人など〉で豊富である〕

The fields *abound in* wild flowers. [Wood] (野原は野生の花でいっぱいである)/America *abounds in* oil. [HSD[5]] (アメリカは石油が豊富である)/Resort areas *abound in* tourists. [RHD] (行楽地は観光客でいっぱいである)

NB① 言語とか人についても用いることができる：Some languages *abound in* figurative expressions. [RHD] (比喩的な表現が豊かな言語もある)/He *abounds in* courage. [UED] (彼は勇気にあふれている)

NB② この型では，単に A の数量が多いことをいっているのではなく，A はある場所・物に本来的に備わっている性質・特徴を表わす．また A はその場所・物にとって好ましい性質のものであることが含意される．この点で 1b. および 2. の用法と異なる．

b. **abound *in*** A〔(生物・資源などが) A〈場所〉にいっぱいある〕

Fish *abound in* the sea. [ALD]/Wild life *abounds in* the region. [AHSD] (野生の生物がその地方に多数生息している)

NB① この型では単に A の数量の多いことが問題となっており，好ましくない意味合いでも用いられる．

NB② Wild flowers *abound there*. [Wood] のような表現からも明らかなように，この型の in は純然たる場所を示す in である (1a. の型の in は 'in respect of' の意)．したがって次のような倒置表現も可能である：*In* conditional perfect construction, redundancies *abound*. *Might could* and *might would* are idiomatic in some regions. [Morsberger, *Commonsense*] (条件を表わす完了時制の構文では，冗長表現が非常に多い．たとえば，might could とか，might would はある地方では慣用的表現になっている)

2. **abound *with*** A〔(場所が) A〈生物など〉でいっぱいである〕

woods that *abound with* game [NWD[2]] (獲物の多い森)/The ocean *abounds with* fish. [HSD[5]]/This country used to *abound with* snakes. [McMordie[3]] (この国はかつてはヘビがうじゃうじゃいた)

NB① abound in と違って abound with は主語と前置詞の目的語を置換して *Fish *abound with* the ocean. のように言えない．

NB② abound with は単に数量の多いことをいう表現で，好ましい性質を持つものについても用いられるが，好ましくない性質を持つものについても用いられる (上例参照)．OED は abound in/with の相違を示す例として次の文をあげているが参考になる：The ship *abounds in* conveniences, but it *abounds with* rats. (その船は設備が十分整っているがネズミが多い)

また abound with A ではおもに A はその場所・物にとって非本質的な (unessential)，付随的な (accidental) 性質を有するものを表わすが [cf. OED, 4]，次

のような例もあり，with と in は交換できる場合も多い：English is a language *abounding with* idiomatic turns of expression. [McMordie³] (英語はイディオマティックな言い回しの多い言語である)

abreast

abreast *of* (or ***with***) A〔(人・国などが) A〈時勢・進歩など〉に遅れないで〕
No linguist who wishes to keep *abreast of* current developments in his subject can afford to ignore Chomsky's theoretical pronouncements. [Lyons, *Chomsky*] (自己の研究課題における最近の進歩に遅れずについて行きたいと願う言語学者はチョムスキーの主張する理論を無視しえない)/keep *abreast with* the times [RHD] (時勢に遅れずについていく)

NB of でも with でも同じように使われるが，of のほうが頻度が高い [cf. UED].

absence

1. **absence *from*** A〔A〈学校・会社など〉を休むこと〕
His *absence from* the meeting was not noticed. [Wood] (彼は会議を休んだがだれも気づかなかった)/frequent *absences from* a job [Web. 3] (仕事をしばしば休むこと)
2. ***in*** (or ***during***) A's **absence**〔A〈人の〉不在・留守中に〕
After a while Roger left him eagerly inspecting his cages of rats to see what progress had been made *in* his *absence*. [Keating, *Dog*] (留守中の実験経過を知るためにネズミのかごを一心に調べている彼をそのままにして，ロジャーはしばらくしてからそこを去った)/*During* my *absence* the plant found a more interesting tidbit to gossip about. [Deming, *Kill*] (私の留守中，工場にはもっとおもしろいゴシップの種が生れていた)
3. ***in* the absence of** A〔A〈人〉の不在中に；A〈物・事〉がないときは〔ないので〕〕
In the absence of Mr Smith, his wife gave us a lesson. [Hill] (スミスさんがいないときは，奥さんがレッスンをしてくれた)/"*In the absence of* any other arrangement I am very glad to take that responsibility upon myself." [Keating, *Dog*] (ほかに約束がないのでそれは私が責任をもってやりましょう)/But diplomacy, morality, science, religion, and such other 'higher' activities are all inconceivable *in the absence of* speech. [Black, *Labyrinth*] (しかし外交，道徳，科学，宗教とか他のこういった「高度な」活動は，ことばがなければ想像することも不可能である)

NB 最後の例では without に接近する．Flesch によると次例では without のほうが好ましいという：The United States has generally granted this courtesy to the Soviet Embassy here, even *in the absence of* an agreement. (米国は駐在のソビエト大使館にこのような優遇措置を，協定がないにもかかわらず，通例与えてきた)

absent (*adj.*, *v.*)

1a. **absent *from*** A〔(人が) A〈学校・会社など〉を休んで〕

You should not be *absent from* class. [Crowell] (授業を休んではいけない)

b. **absent *from*** A〔(感情・精神などが) A〈心・生活など〉に欠けている〕

Revenge is *absent from* his mind. [RHD] (彼の心には復讐心はない)/ Anxiety, depression, excitement—such enemies of sleep are *absent from* the lives of young children. [*Reader's Digest*, June 1971] (心配，憂うつ，興奮といった睡眠の敵は年少の子供たちの生活には存在しない)

NB 具体的なものが具体的な場所に存在しないことをいう場合には in が用いられる：Snow is *absent in* some countries. [HSD^5] (雪の降らない国もある)

2. **absent oneself *from*** A〔(人が) A〈学校・会社など〉を休む〕

You should not *absent yourself from* class. [Wood] (授業を休んではいけない)

NB① この型では意図的に休むことが暗示される.

NB② この型は堅い表現で，You should not *stay away from* class. のほうが普通に用いられる言い方 [cf. Hill, *Guide* p. 113]. ☞STAY

absorb

1. **absorb** A ***from*** B〔(物などが) B〈物〉から A〈物〉を吸収する〕

Plants *absorb* energy *from* the sun. [AHSD] (植物は太陽からエネルギーを吸収する)

2. **be absorbed *by*** A〔(物が) A〈物〉に吸収される〕

Light rays *are absorbed by* black surfaces. [NWD^2] (光線は黒い表面に吸収される)

NB① Black surfaces *absorb* light rays. の受身表現.

NB② be absorbed *in* (or *into*) となる場合もある：A small firm *is absorbed in* a large one. [Wood] (小さな会社が大きな会社に吸収される)/Water *is absorbed into* the soil. [ibid.] (水は土中に吸収される)

3. **be absorbed *in*** A〔(人が) A〈仕事など〉に熱中する〕

He *was absorbed in* his reading. [RHDC] (彼は読書に熱中していた)/ If he had seen me come into the store, he *was* too *absorbed in* thought to speak to me. [Caldwell, *Summertime Island*] (もし彼が僕が店にはいってくるのを見ていたとしても，彼は考えこんでいたので私に話しかけることはできなかっただろう)〔この文は仮定法の変形として興味がある．帰結節に相当するのが to speak to me (=he could not have spoken to me (because he was so absorbed in thought)) となっている〕

NB① The circus *absorbed* (=interested very much) the boys. [HSD^5] (サーカスは少年たちを夢中にさせた) のような能動表現もあるが，これに相当する受身文は The boys *were absorbed in* the circus. であって The boys *were absorbed by* the circus. とはならない．be absorbed by の型は 2. の文字通り何かを吸収するの意の場合にかぎられると一般に言われている [cf. Hill, *Guide* p. 132]. しかし，次のような例もあるので，この説は必ずしも正当とは言えない：He *was*

absorbed by what he was saying and.... [Malamud, *Bill*] (彼は自分の話にすっかり夢中になっていたので…) また上の第2例からみて明らかなように このabsorbedは形容詞化している.

4. **be absorbed *with*** A〔(人が) A〈事〉で頭がいっぱいである《Aは名詞・動名詞》〕

Eric *was* much too *absorbed with* his histerial hatred of the balloon man on the platform to notice any noise behind him. [Keating, *Dog*] (エリックは演壇の上の風船のようにブクブク肥えた男に対するヒステリックなまでの憎悪の念で頭がいっぱいだったので, 背後の物音には全く気がつかなかった)/He had *been* so *absorbed with watching* the building that he hadn't heard footsteps on the gravel path. [McBain, *He Who Hesitates*] (彼は建物の監視に気をとられていたので, じゃり道を歩いてくる足音が耳にはいらなかった)

NB over も用いられる: "It seemed quite natural that they should *be absorbed over* a baby and not notice anything." [Christie, *Lion*] (彼らが赤ん坊のことに夢中で, 事件のことに何も気づかなかったというのは十分ありそうなことのように思えました)

abstain

abstain *from* A〔(人が) A〈飲食・批評など〉を自発的に慎しむ[控える]; A〈投票〉を棄権する《Aは名詞・動名詞》〕

They *abstained from* comment. [Web. 3] (彼らは批評を控えた)/He *abstains from eating* candy. [AHSD] (彼はお菓子を食べるのを控えている)

NB① abstain oneself from の再帰代名詞 oneself が脱落してできた型. from の代りに of を用いるのは廃語 [cf. OED, 2].

NB② 文脈から明らかな場合は from A は省略される: Twenty-five persons voted for the motion, twenty-one against, and three *abstained* [*from voting*]. [Wood] (その動議に25人が賛成投票し, 21人が反対投票で3人が棄権した)

abundance

an abundance *of* A〔たくさんのA〈物〉; あり余るほど多くのA〕

There was *an abundance of* food. [Wood] (たくさんの食糧があった)

NB① There was food *in abundance.* と言うほうが意味が強く, 多量 (great amount) であることに関心が払われている [cf. Wood, *Prep.*].

NB② 人については普通用いない [Web. 3].

abundant

abundant *in* A〔(場所などが) A〈生物・物〉で豊富である〕

The district was *abundant in* fruit. [Heaton] (その地方は果物が豊富であった)/The trees are *abundant in* fruit. [Wood] (その木は果物がたくさんなっている)/a river *abundant in* salmon [RHD] (サケがよくとれる川)/a forest *abundant in* trees [AHSD] (木の多い森)

NB① abound in A の 1a. の用法と同じく，A は ある場所などにとって好ましい性質のものであることが含意される．したがって a ship *abundant in* rats のような表現は通例用いられない．☞ RICH

NB② 順序を変えて Fruit was *abundant in* the district. とも言えるが，単に数量の多少に関心のある表現で，in は純然たる場所を示す："I expect he's been detained by a leprechaun," he said. "I understand they are still *abundant in* this part of Ireland." [Keating, *Dog*]（「彼は妖精に引き留められているのかもしれません」と彼は言った．「妖精はアイルランドのこの地方にはまだ沢山いますから」）

NB③ 動詞 abound の場合，好ましくない意味合いでは a ship *abounding with* rats といえるが，abundant が with をとることはまれである．

accept

1. **accept** A *as* B〔(人が) A〈人・物〉を B として認める《B は名詞・形容詞》〕
We *accepted* him *as* a member. [Web. Int.]（彼の入会を認めた）/Why should *might could* be frowned upon as shibboleth and the ubiquitous suffix *-wise* be *accepted as* "sophisticated"? [Morsberger, *Commonsense*]（どうして might could がある階級特有の表現としてまゆをひそめられ，至る所に顔を出す接尾辞 -wise が「教養のある」ものとして容認されるのか）/"When I *accepted* him *as* a partner, I did so knowing he wouldn't be an easy man to get on with." [Jeffries, *Death*]（私が彼を仲間として受け入れたとき，彼がつき合いにくい男と知っていてそうしたのです）

2. **accept** *of* A〔(人が) A〈招待・贈物・地位〉を受け入れる〕
Her pride would not let her *accept of* charity. [Wood]（彼女の自尊心が他人の施しを受け入れることを許さなかった）

NB Wood (*Prep.*) は上のような用法は現在では廃語としている．しかし廃語とまではいかないようである．COD[5] によると accept service of writ [*or* bill]（令状［訴状］の送達を受けとる）のような連語は例外として，accept の代りに accept of を用いることがあるが，儀礼 (formality)，おうへいな態度 (condescension) を暗示するという．RHD はこのような情的意味 (connotation) には言及せず，上に示したように，招待・贈物・地位を受け入れる意では時々 of を従えるとのみ述べている．いずれにせよ，accept of はあまり一般的な表現でなく accept をすべての場合に用いるのが無難ということになろう．

acceptable

acceptable *to* A〔(物・事が) A〈人・社会〉に受け入れられる；歓迎される〕
The following invented examples seem *acceptable to* me. [Bolinger, *Phrasal Verb*]（以下の私が作った用例は私には容認できるように思われる）/The seller frequently saw the transaction as permission to use in ways *acceptable to* tribal laws or custom. [Brown, *Cultures*]（売り手が（土地の）取引を，種族の法や慣習に合致したやり方で使用することの許可とみなしていることがしばしばあった）

NB① unacceptable についても同様：*Looks like,* though *unacceptable to* pur-

ists, is rapidly becoming idiomatic. [Morsberger, *Commonsense*] (looks likeは純粋主義者には容認されていないが，急速に慣用的になりつつある)

NB② 次の例，Flowers are an *acceptable* gift *to* a sick person. [HSD[5]] (花は病人に歓迎される贈物である) は ...a gift (which is) *acceptable to* a sick person から派生したものと考えられる．すなわち to の選択は gift よりもその前にある acceptable によってなされたものとみなすことができる (cf. a gift *for* our mother on Mother's Day [AHSD])．しかし次の例はどうであろうか：an *acceptabe* man *for* the job [AHSD] (その仕事に適した人) この場合3つの解釈が可能である．1つは，この for は books *for* children (子ども向きの本) に見られるような用法で，for と acceptable との間に連語関係はないとみる見方であり，2つは a man (who is) *acceptable for* the job のような形が基底にあって，これから派生したとみる見方である．3つは基底の形は a man (who is) *acceptable to* the job であるが acceptable が名詞の前へ移行した結果，to が for に取って代わられたと考える見方である．このような現象は *becoming* conduct *for* a gentleman [HSD[5]] (紳士にふさわしい行為) にも見られる． cf. conduct *becoming to* a gentleman ☞BECOMING

access

a. **access *to*** A〔A〈場所〉への出入り；(やや比喩的に) 近づく道・方法〕

The new bridge will provide direct *access to* the suburbs east of the city. [Long] (新しい橋ができると市の東部の郊外に回り道しなくても行けるようになる)/The avalanche cut off the *access to* the mountain village. [Scholastic] (なだれのためその山村へ行く道は断たれた)

NB① through も用いられる：gain *access through* the basement [AHSD] (地下室への出入りを許される)

NB② A〈人〉の場合もある：He has *access to* men who can help him get work. [HSD[5]] (職を得るのに力を貸してくれそうな人とコネがある)

b. **access *to*** A〔A〈場所〉へ出入りする権利；A〈書類など〉を見たりできる権利〕

Only graduate students have *access to* the library shelves. [Crowell] (大学院生のみが書庫にはいることができる)/"My secretaries have *access to* my files. Generally they do not see the confidential one." [Keating, *Dog*] (秘書は私のファイルを自由に見ることができる．といってもふだんは機密に関するファイルは見ないがね)

accessible

a. **accessible *to*** A〔(場所が) A〈人〉に近づける〕

This village is *accessible* only *to* people on foot. [Hill] (この村は徒歩で行く人にしか近づけない)

NB 近づく起点を示す場合は from：He wants a house that is *accessible from* the station. [JSD] (彼は駅に便利な家を欲しがっている)

b. **accessible *to*** A〔(書類などが) A〈人〉に利用できる〕

These documents are *accessible to* all staff members. [AHSD] (これらの書類は職員全部が利用できる)

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c